

作成年月日	令和元年9月2日
作成部局	教育委員会事務局
課室名	教育企画課

第2期「ひょうご教育創造プラン」5年間の取組〔総括〕

第2期「ひょうご教育創造プラン」は、子どもたちが将来の夢や目標をもって、創造性やチャレンジ精神等を培い、自らの個性と可能性を伸ばすことをめざし、「兵庫が育むこころ豊かで自立した人づくり」の基本理念のもと、4つの基本方針により、系統的なキャリア教育や兵庫型「体験教育」等に取り組んできた。

こうした取組の結果、プランに掲げた全156の指標のうち数値が確定した132項目をみると、105項目（約80%）が目標を達成、あるいは概ね達成することができた。一方で11項目が目標値を著しく下回った。

今後さらに先行き不透明な時代を迎えるにあたり、第2期プランの成果を踏まえ、第3期プランが掲げる「未来への道を切り拓く力」の育成に向けて着実に取り組んでいく。

◎：目標値を達成した（100%以上） △：目標値をやや下回った（70%以上～90%未満）
○：目標値を概ね達成した（90%以上～100%未満） ▲：目標値を下回った（70%未満）

〔指標の達成状況〕

基本方針	指標数	うち確定	達成状況				未確定
			◎	○	△	▲	
1 自立して未来に挑戦する態度の育成	19	17	5	10	2	0	2
2 「生きる力」を育む教育の推進	83	72	22	37	8	5	11
3 子どもたちの学びを支える仕組みの確立	33	22	12	5	2	3	11
4 すべての県民が学ぶ生涯学習社会の形成	21	21	9	5	4	3	0
合 計	156	132	48	57	16	11	24

参 考

この5年間の指標の達成状況を振り返ると、「インターンシップを行った県立高等学校生徒の割合」や、「年間を通じてスポーツをする成人の割合」等5項目で、当初目標に達していなかったが最終的に目標を達成した。一方で、「教職員の処分件数」等11項目が期間を通じて目標を達成できず、「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う生徒の割合」や「精神疾患による療養者数（教職員）」等16項目が当初目標を達成していたが最終的に不達成となり、3期プランへの課題を残した。

H30 ◎or○	期間を通じて目標を達成していたもの	95項目 (72.0%)
	当初目標を達成できなかったが、最終年度で目標を達成したもの	5項目 (3.8%)
	期間中目標を達成できない年もあったが、最終年度で目標を達成したもの	5項目 (3.8%)
H30 △or▲	当初目標を達成していたが、最終年度で目標を達成できなかったもの	16項目 (12.1%)
	期間を通じて目標を達成できなかったもの	11項目 (8.3%)

※達成：目標達成率90%以上

※未確定項目（24項目）除く

計132項目

《5年間の主な取組・成果》

基本方針1 自立して未来に挑戦する態度の育成

1 社会的自立に向けたキャリア形成の支援

□ 小・中・高それぞれの発達段階に応じ、教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の充実を図った。

主な取組

【小・中・高】

○キャリアノートの作成・活用（小中高）

・キャリアノートの活用・実践方法等について研修を実施

【中】

○地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」の推進

・トライやる・ウィークの事前事後指導において、発展学習として進路学習を行った学校の割合

79.5% (H26) → 100% (H30)

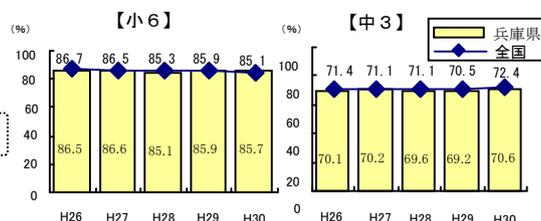
【高】

○高校生就業体験事業～インターンシップ推進プラン～

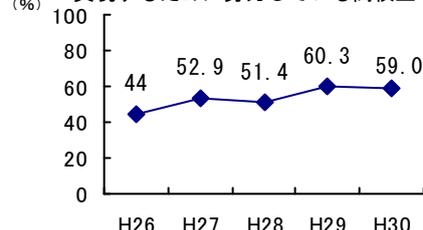
・就職希望者のうちインターンシップを行った県立高等学校生徒（全日制）の割合

70.9% (H26) → 92.0% (H30)

◆将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合



◆将来の生き方や職業について考え、それを実現するために努力している高校生の割合



2 兵庫型「体験教育」の推進

□ 自然、地域社会及び芸術文化に触れる「本物に出会う感動体験」や地域の人々等との関わりを通じた「絆に気づき、感謝する体験」「ふるさと意識の醸成を図る体験」について、発達段階に応じて、県民の参画と協働のもと体験活動の充実を図った。

主な取組

【小】

○環境体験事業

・環境体験事業において、地域と協働してふるさとの自然のよさに気づく学習プログラムを実施した学校の割合

83.5% (H26) → 98.0% (H30)

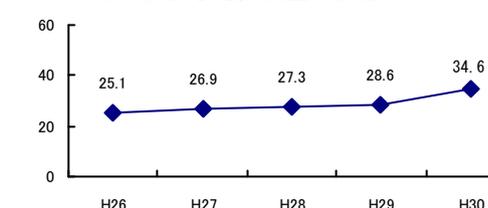
【高】

○高校生ふるさと貢献活動事業～トライやるワーク～

・参加者のうち地域と協働した活動に参加した生徒の割合

55.8% (H26) → 79.6% (H30)

◆自発的に地域活動やボランティア活動に参加した高校生の割合



3 グローバル化に対応した教育の推進

□ グローバル・イングリッシュプロジェクトや地域人材を活用した小学校英語教育支援充実事業等により、英語をはじめとする外国語教育や異文化に直接触れる機会の充実を図った。

□ 将来国際社会で活躍する意欲・態度等を育成するため、海外留学チャレンジプランや国際交流推進事業等により、高校生の海外留学・国際交流の充実を図った。

主な取組

【高】

○Can-Do リストを活かした英語授業(H26～)

・Can-Do リストを作成している県立高等学校の割合

12.6% (H26) → 100% (H28)

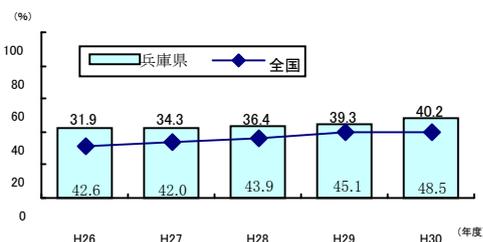
○ひょうごグローバルリーダー育成事業(H27～)

・ひょうごグローバルリーダー育成キャンプ参加者数 (H27～30) : 延べ 244 人

○海外留学チャレンジプラン (H25～)

・留学支援金給付対象者数 (H26～30) 短期派遣 779 人
長期派遣 73 人

◆英検準2級以上相当の英語力を有する高校3年生の割合



基本方針2 「生きる力」を育む教育の推進

4 「確かな学力」の育成〔小・中学校〕

□ 基本的な学習習慣・生活習慣の定着、基礎学力向上及び小学校から中学校への円滑な接続を図るため 35 人学級編制や兵庫型教科担任制に取り組むとともに、全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学力向上方策の充実を図った。

主な取組

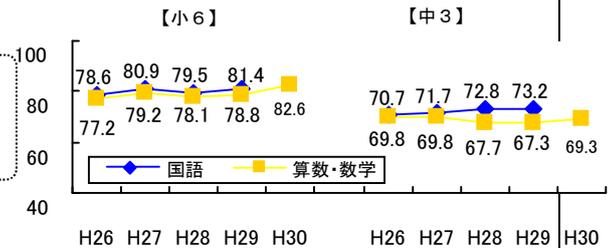
〔小・中〕

○ひょうごがんばりタイム～放課後における補充学習等推進事業～

- ・実施例：地域人材や教員 OB を活用した学力向上支援
地元大学と連携した大学生による個別指導等
- ・実施市町：19 市町 137 校 (H26) →35 市町 409 校 (H30)

○「ひょうごつまずきポイント指導事例集」の作成(H27)

◆授業の内容がよくわかると回答した児童生徒の割合



5 「確かな学力」の育成〔高等学校〕

□ 5 学区に再編した通学区域の定着を図り、学びたいことが学べる魅力ある学校づくりを推進するとともに、生徒の学習意欲や学力の向上を図った。

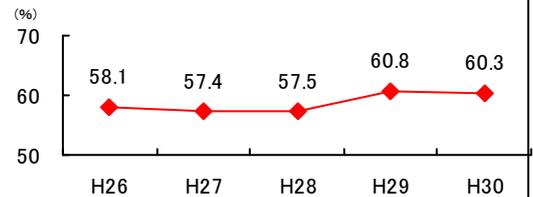
主な取組

〔高〕

○授業改善に向けた取組

- ・授業研究（年間 5 回以上）を伴う校内研修を実施した学校の割合 37.1% (H26) →85.0% (H30)
- ・探究活動を取り入れた授業を行っている学校の割合 83.2% (H26) →90.5% (H30)

◆学校の授業がよくわかると感じている生徒の割合



6 「豊かな心」の育成

□ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進するため、家庭・地域との連携のもと、授業公開を促進しつつ、指導体制の充実や教員の指導力の向上を図った。

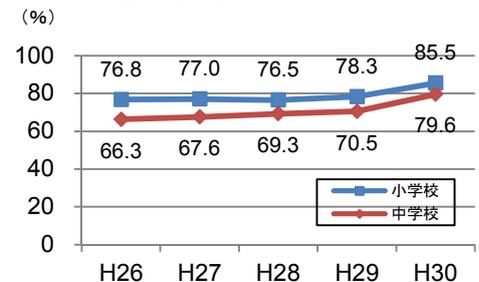
主な取組

〔小・中〕

○道徳教育推進事業

- ・道徳教育副読本を活用した授業の年間授業時数
(小) 5.1 時間 (H26) →6 時間 (H30)
(中) 4.4 時間 (H26) →6 時間 (H30)
- ・道徳の授業を全学級で家庭・地域に公開している学校の割合 (小中) 67.1% (H26) →92.3% (H30)
- ・道徳教育副読本を活用した校内研修を実施している学校の割合 (小中) 93.6% (H26) →99.9% (H30)

◆自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合



7 「健やかな体」の育成

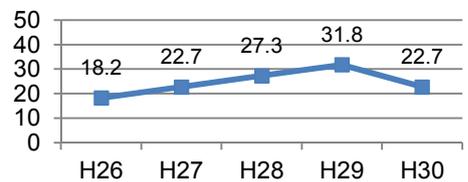
- 生涯にわたり継続して運動に取り組むことができる資質・能力を育むため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査等の結果を踏まえ、体力・運動能力の向上を図った。

主な取組

〔小〕

- 「体力アップひょうご」サポート事業
 - 「3分間で分かる小学校体育授業」「サポーター動画集」「運動プログラム」等の動画を作成、ホームページ上で公開
- 教職員・研修資料（4訂版）「いきいき運動部活動」作成

◆昭和60年頃の子どもの体力水準に達している子どもの割合



8 幼児期の教育の充実

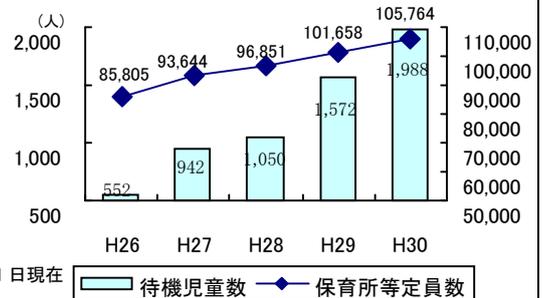
- 幼児期の教育の質の向上を図るため、幼稚園・保育所・認定こども園において、幼児一人一人の発達や学びの連続性及び家庭生活等との連続性を確保すべく、環境整備等の充実を図った。

主な取組

〔幼〕

- 認定こども園整備等促進事業
 - 保育所等から認定こども園への移行に要する経費を補助
 - 施設整備補助（H26～H30） 8 施設
 - 移行促進補助（H26～H30） 236 施設
 - 認定こども園の数の推移 230 園（H26）→509 園（H30）

◆待機児童数及び保育所等入所者数の推移



9 特別支援教育の充実

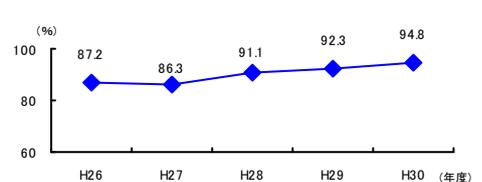
- 障害のある児童生徒等一人一人の教育的ニーズに対応するため、通級による指導等多様な学びの場における指導の充実を図った。
- 障害のある児童生徒等の社会的自立と社会参加を支援するため、就学前から卒業後までを見通した一貫した相談・支援体制の構築や児童生徒の希望や特性に応じた進路指導・個別の教育支援計画等の引継ぎによる継続的な支援の推進を図った。

主な取組

〔高・特〕

- 特別支援学校と高等学校の交流及び共同学習の推進
 - 特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施校数
 県立特別支援学校 11 校 県立高等学校 11 校 (H26)
 → 県立特別支援学校 16 校 県立高等学校 16 校 (H30)
 - 県立特別支援学校分教室の設置
 H26 猪名川高等学校（こやの里特別支援学校）
 H27 武庫荘総合高等学校（阪神特別支援学校）

◆交流及び共同学習を通じて、障害のある生徒の理解がよく深まった高校生の割合



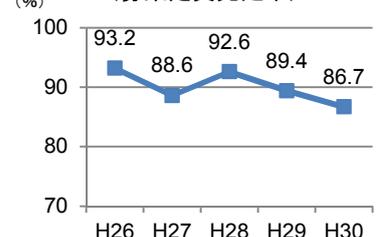
10 私学教育の振興

- 私立学校の適正な運営を確保し、保護者の経済的な負担の軽減等を図るため、就学支援金・授業料軽減補助をはじめとする私立高等学校等生徒の就学助成を実施した。

主な取組

- 私立高等学校等奨学給付金事業
 - 支給対象数 533 人 (H26) → 6,962 人 (H30)

◆県民による私立高校の選択（募集定員充足率）



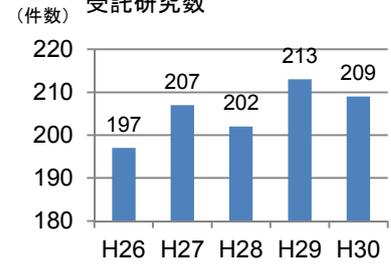
11 高等教育の推進

- 姫路工学キャンパスの整備や大学院減災復興政策研究科の開設等、伝統と強みをいかした個性・特色豊かな県立大学づくりの推進を図った。

主な取組

- HUMAP（兵庫・アジア太平洋大学間交流ネットワーク）構想の推進
 - ・短期留学生数 359人(H26)→498人(H30)
- 先端医工学研究センターにおける医・産・学連携の推進(H28～)
- 防災系大学院減災復興政策研究科の開設、人材育成(H29～)

◆県立大学における共同研究・受託研究数



◆目標値を著しく下回った（70%未満）項目

指標	H26 実績値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H30 目標値	
昭和 60 年頃のこどもの体力水準に達している項目の割合 [小・中・高]	18.2%	22.7%	27.3%	31.8%	22.7%	50%	
わくわく幼稚園を実施している私立幼稚園数	157 園	152 園	146 園	144 園	140 園	202 園	
県立大学における留学生数 (受入人数)	160 人	170 人	184 人	194 人	189 人	300 人	
スポーツをする児童の割合 (授業を除き 1 日 1 時間以上)	小	48.4%	48.6%	50.3%	52.0%	51.3%	77.8%
	高	51.2%	53.9%	54.9%	54.7%	53.8%	78.0%

基本方針3 子どもたちの学びを支える仕組みの確立

12 学校の組織力及び教職員の資質能力の向上

- 兵庫県いじめ防止基本方針（H29.3改定）に基づき、学校・関係機関が一丸となったいじめの未然防止、早期発見・早期対応を目的とした、全県的、地域的な連携体制の強化を図った。
- 児童・生徒と向き合う時間を確保するための取組を推進するとともに、スクール・サポート・スタッフや部活動指導員等の外部人材の配置等、教職員の勤務時間の適正化を図った。
- 教職員がキャリアステージに応じて身に付けるべき高度な専門的知識と実践的指導力をまとめた「兵庫県教員・管理職資質向上指標」及び当該指標を踏まえた「兵庫県教職員研修計画」を策定し、計画的に各種研修の充実を図った。

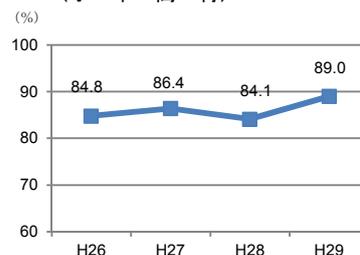
主な取組

【小・中・高・特】

- 「いじめ対応マニュアル」改訂（H29）
- 「教職員の勤務時間の適正化推進プラン」作成（H29）

- ・ 教職員定時退勤日（ノー残業デー）の実施状況
（週1回以上）66.3%（H26）→89.6%（H30）
- ・ ノー会議デーの実施状況
（週1回以上）88.8%（H26）→97.4%（H30）

◆ 認知したいじめを解消させた割合
（小・中・高・特）



13 安全・安心な学習環境の整備

- 学校施設の耐震化を計画的に実施するとともに、老朽化に対応するため、長寿命化改修やトイレ改修の推進を図った。併せて、空調設備、太陽光発電設備やICT環境等学習環境の整備の充実を図った。
- 子どもたちの学習機会を保障するため、経済的理由によって就学が困難な高校生等に対して、就学資金の貸与等を実施した。

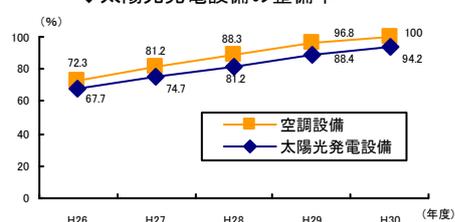
主な取組

【高・特】

- 県立学校の耐震化、空調設備導入、太陽光発電設備の設置を推進

- ・ 県立学校の耐震化率（高）92.2%（H26）→100%（H29）
（特）92.4%（H26）→100%（H28）

◆ 普通教室への空調設備の整備率
◆ 太陽光発電設備の整備率



14 家庭の教育力の向上

- 家庭教育の充実を図るため、地域の人たちが気軽に子育ての協力や相談し合える環境の整備とともに、子育て支援団体や関係機関相互の連携強化によるネットワーク活動の充実等、地域ぐるみの子育て支援の推進を図った。
- 育・家庭学習等の基本的な生活習慣、学習環境の確立等、家庭教育の重要性について啓発を行った。

主な取組

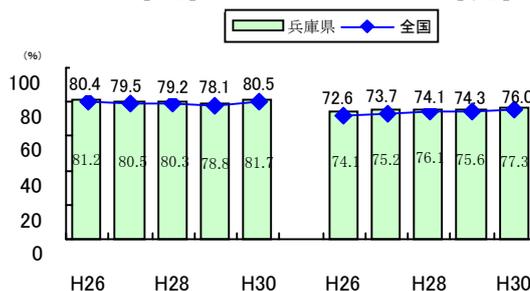
【小・中・高・特】

- PTAによる学校、家庭、地域の連携強化事業

- ・ 市町における子育て家庭を対象とした講座への参加者数の推移 596,749人（H26）→815,917人（H30）
- ・ P T C A活動支援事業参加者数 18,746人（H26）→19,783人（H30）

◆ 家の人と学校での出来事について
話をする児童生徒の割合

【小6】 【中3】



15 地域全体で子どもを育てる環境づくりの推進

- 地域における子育て家庭への支援、放課後等における子どもの安全で穏やかな居場所確保、学校支援活動等を継続的に実施する体制の構築や、地域と学校の連携を円滑に進めるコーディネーター機能の充実を図った。

主な取組

〔小・中〕

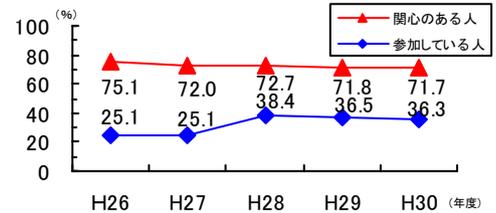
- 学校・家庭・地域の連携協力推進事業
(ひょうごの学校支援地域本部事業)

・地域住民の参画による学校地域連携の仕組みを有する学校の割合(小中) 66.3%(H26)→97.1%(H30)

- ひょうご放課後プラン事業(子ども教室型)

・開催日数(延べ) 11,874日(H26)→13,657日(H30)

- ◆住んでいる地域のことに関心のある人の割合
◆地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している人の割合



◆目標値を著しく下回った(70%未満)項目

指標	H26 実績値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H30 目標値
教職員の処分量 [小・中・高・特]	370件	504件	339件	354件	334件	130件以下
体罰の発生件数 [小・中・高・特]	50件	45件	32件	29件	20件	0件
精神疾患による療養者数 [小・中・高・特]	235人	217人	212人	221人	246人	160人以下

基本方針4 すべての県民が学ぶ生涯学習社会の形成

16 生涯を通じた学びの機会・場の充実

- 県民が美術館、博物館、図書館等の社会教育施設を利用する機会の充実を図るため、県立美術館の元気づくり事業や県政150周年記念イベントの実施等、アウトリーチ活動の積極的な展開等により、多様な学習ニーズに対応した生涯学習プログラムの充実を図った。

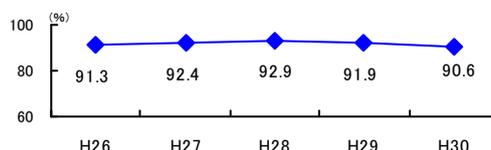
主な取組

県立美術館、県立図書館、県立歴史博物館、
 県立人と自然の博物館、県立コウノトリの郷公園、
 県立考古博物館、兵庫陶芸美術館の運営

- ・7施設の総利用者数（アウトリーチ含む）

242.6万人(H26)→252.3万人(H30)

◆美術館・博物館における特別展等の内容に満足している来館者の割合



17 文化財の保存・活用

- 本県が育んできた歴史文化遺産を後世に継承するため、その保存・整備の充実を図った。
- 歴史文化遺産をいかしたまちづくりやそれを実践・支援することができる人づくりを推進するため、ヘリテージマネージャー（歴史文化遺産活用推進員）等の養成・活用を図った。

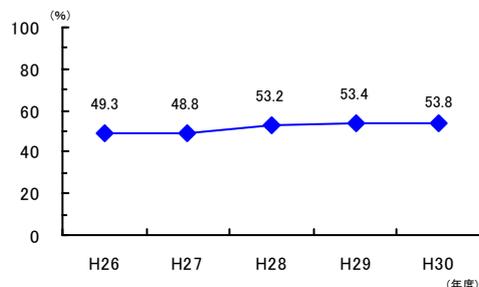
主な取組

○文化財の指定及び登録

○指定文化財の保存整備

- ・指定文化財（県）842(H26)→864(H30)
 （国）589(H26)→594(H30)
- ・登録文化財（県）21(H26)→22(H30)
 （国）601(H26)→684(H30)

◆住んでいる地域には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化など）があると思う人の割合



18 「スポーツ立県ひょうご」の実現

- 成人のスポーツ実施者の増加を図るため、スポーツクラブ21ひょうごを核として、ニュースポーツの普及や身近で手軽にスポーツに参加できる環境を整備し、誰もが様々な形態でスポーツに参画できる機会の充実を図った。
- 競技スポーツの振興を図るため、ジュニアからトップレベルに至るまでの一貫した指導体制の強化を図るとともに、各種競技団体等のニーズに対応した指導者研修会等を実施した。

主な取組

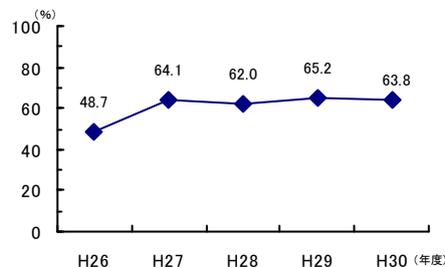
○「スポーツ立県ひょうご」創出プロジェクト事業

- ・親子で行うスポーツプログラムを実施するスポーツクラブ21ひょうごの割合 74.1%(H26)→75.6%(H30)

○関西マスターズスポーツフェスティバルの開催

- ・気軽に参加できる生涯スポーツ大会数 63(H26)→73(H30)

◆成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率



◆目標値を著しく下回った（70%未満）項目

指標		H26 実績値	H27 実績値	H28 実績値	H29 実績値	H30 実績値	H30 目標値
スポーツをする児童の割合（授業を除き1日1時間以上）【再掲】	小	48.4%	48.6%	50.3%	52.0%	51.3%	77.8%
	高	51.2%	53.9%	54.9%	54.7%	53.8%	78.0%
大学や企業と連携したスポーツイベント等の開催に取り組むスポーツクラブ21ひょうごの割合		4.4%	11.7%	16.7%	23.6%	19.3%	38%

第2期「ひょうご教育創造プラン」に係る指標の達成状況(H26～H30)

別添1

評価基準

評価 (達成率)	記号
目標値を達成した (100%以上)	◎
目標値を概ね達成した (90%以上100%未満)	○
目標値をやや下回った (70%以上90%未満)	△
目標値を下回った (70%未満)	▲
実績値が未確定	—
新規調査又は隔年調査等のため評価不可	※

基本方針1 自立して未来に挑戦する態度の育成

基本的方向1 社会的自立に向けたキャリア形成の支援

No	指標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値	
1	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小	87.6 %	○	◎	○	◎	◎	85.7 %	全国平均以上
		中	72.6 %	○	○	○	○	○	70.6 %	全国平均以上
2	将来の生き方や職業について考え、それを実現するために努力している生徒の割合 [高]	新規調査	※	◎	○	◎	○	59.0 %	60 %	
3	トライやる・ウィークの事前事後指導において、発展学習として進路学習を行った学校の割合 [中]	64.6 %	◎	◎	◎	○	◎	100 %	100 %	
4	ものづくり体験館での体験学習を実施した学校数 [中]	102 校	◎	◎	◎	◎	◎	113 校	毎年度100校	
5	社会人等による進路講演会等を実施した県立高等学校数 [高]	100 %	○	◎	◎	◎	◎	100 %	100 %	
6	就職希望者のうちインターンシップを行った県立高等学校生徒の割合 [高]	66.1 %	△	△	△	○	○	92 %	100 %	
-	特別支援学校高等部から一般就労した卒業生の割合 [特]	16.5 %	▲	△	△	△	—	25.1 %	全国平均以上	

基本的方向2 兵庫型「体験教育」の推進

No	指標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値	
1	地域と協働してふるさとの自然のよさに気付く学習プログラムを実施した学校の割合 [小]	79.8 %	○	○	○	○	○	98.0 %	100 %	
2	トライやるアクション（トライやる・ウィークで培ったネットワーク等を活用した生徒の自発的活動）を実施した学校の割合 [中]	56.6 %	◎	○	△	△	△	61.0 %	80 %	
3	今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小	61.0 %	○	○	○	○	○	59.9 %	全国平均以上
		中	42.8 %	◎	◎	◎	○	○	43.1 %	全国平均以上
4	高校生ふるさと貢献活動事業等学校行事において地域と協働した活動（地域の祭り等の伝統行事や清掃活動等）に参加した生徒の割合 [高]	新規調査	※	○	○	○	○	79.6 %	80 %	
5	自発的に地域活動やボランティア活動（地域の祭り等の伝統行事や清掃活動等：学校行事除く）に参加した生徒の割合 [高]	新規調査	※	○	○	○	◎	34.6 %	33 %	

基本的方向3 グローバル化に対応した教育の推進

No	指標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値	
1	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している児童生徒の割合	小	72.7 %	○	○	○	○	※	※	78 %
		中	63.8 %	◎	○	○	◎	※	※	69 %
2	将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う生徒の割合 [高]	新規調査	※	◎	○	◎	△	44.3 %	50 %	
3	英検準2級以上相当の英語力を有する高校3年生の割合 [高]	38.4 %	◎	○	○	○	○	48.5 %	50 %	
4	総合的な学習の時間や特別活動で伝統文化活動等を実施した学校の割合 [高]	新規調査	※	○	○	◎	○	32.0 %	33 %	
5	副読本「世界と日本」を活用した授業を実施した学校の割合 [高]	新規調査	※	◎	◎	○	○	93.8 %	100 %	

基本方針2 「生きる力」を育む教育の推進

基本的方向1 「確かな学力」の育成

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値	
1	「全国学力・学習状況調査」における学力調査結果（平均正答率）〔小学校〕	国A	63.3 %	◎	◎	◎	◎	○	70 %	全国平均以上
		国B	49.9 %	○	◎	◎	○	○	54 %	全国平均以上
		算A	77.4 %	○	◎	◎	○	○	63 %	全国平均以上
		算B	59.2 %	◎	◎	◎	◎	◎	52 %	全国平均以上
1	「全国学力・学習状況調査」における学力調査結果（平均正答率）〔中学校〕	国A	76.8 %	◎	◎	◎	◎	◎	77 %	全国平均以上
		国B	67.0 %	◎	◎	○	◎	◎	61 %	全国平均以上
		数A	65.9 %	◎	◎	◎	◎	◎	69 %	全国平均以上
		数B	43.8 %	◎	◎	◎	◎	◎	48 %	全国平均以上
2	学校の授業以外に、普段（月曜から金曜日）、1日当たり30分以上読書する児童生徒の割合	小	34.4 %	◎	○	△	△	○	39.7 %	41 %
		中	26.3 %	○	○	△	△	△	27.1 %	33 %
		高	新規調査	※	○	○	△	△	12.4 %	15 %
3	授業（国、算・数）の内容がよく分かると回答する児童生徒の割合	小国	78.2 %	○	◎	○	○	※	※	83 %
		小算	78.9 %	○	○	○	○	○	82.6 %	84 %
		中国	69.6 %	○	○	○	○	※	※	75 %
		中数	68.7 %	○	○	○	○	○	69.3 %	74 %
4	「学校の授業がよく分かる」と感じている生徒の割合〔高〕	55.7 %	◎	◎	○	◎	◎	60.3 %	60 %	
5	普段の授業で、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思う児童生徒の割合	小	77.6 %	○	◎	◎	◎	※	※	90 %
		中	50.6 %	◎	◎	◎	◎	※	※	85 %
6	普段の授業で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う児童生徒の割合	小	70.6 %	○	○	○	○	※	※	80 %
		中	37.9 %	○	○	◎	○	※	※	55 %
7	家庭など学校での授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合	小	64.6 %	○	○	○	○	○	66.8 %	70 %
		中	67.9 %	○	○	○	○	○	71.5 %	73 %
		高	50.4 %	◎	○	○	○	○	52.0 %	55 %
8	探究的活動を取り入れた授業を行っている学校の割合〔高〕	新規調査	※	◎	◎	○	○	90.5 %	100 %	
9	「ことばの力」に関する教員研修を実施している学校の割合〔小・中〕	100 %	◎	◎	◎	◎	◎	100 %	全校で継続実施	
10	観察・実験活動充実のための高校教員等による研修会を開催する学校数〔小〕	53 校	△	△	▲	△	○	64 校	70 校	
11	I C T活用、情報モラル指導等に関する校内研修を実施している学校の割合〔小・中・高〕	49.0 %	○	◎	◎	◎	○	97.9 %	100 %	

基本的方向2 「豊かな心」の育成

No	指 標		H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小	75.9 %	○	○	○	○	◎	85.5 %	81 %
		中	65.2 %	◎	◎	◎	◎	◎	79.6 %	71 %
2	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している児童生徒の割合	小	72.7 %	○	○	○	○	※	※	78 %
		中	63.8 %	◎	○	○	◎	※	※	69 %
3	兵庫県道徳教育副読本を活用した授業の年間授業時数	小	4.8 時間	◎	◎	◎	◎	◎	6 時間	6 時間
		中	4.7 時間	○	○	○	○	◎	6 時間	6 時間
4	兵庫県道徳教育副読本を活用した校内研修を実施している学校の割合 [小・中]		90.8 %	◎	○	◎	◎	○	99.9 %	100 %
5	道徳の授業を全学級で家庭・地域に公開している学校の割合 [小・中]		67.4 %	○	○	△	△	○	92.3 %	100 %
6	人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合	小	93.5 %	※	※	○	○	○	95.6 %	100 %
		中	93.0 %	※	※	○	○	○	95.3 %	100 %
7	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	小	95.8 %	○	○	○	○	○	96.8 %	100 %
		中	93.5 %	○	○	○	○	○	95.7 %	100 %
8	人権教育資料を活用した授業を実施した学校の割合	小	71.7 %	○	○	○	○	△	83.6 %	100 %
		中	旧版 86.8 %	※	△	△	△	△	75.6 %	100 %
		高	86.1 %	◎	○	△	△	△	75.7 %	100 %
9	人権教育資料を活用した校内研修を実施した学校の割合	小	77.5 %	◎	◎	◎	◎	○	96.4 %	100 %
		中	76.2 %	◎	◎	◎	○	○	93.7 %	100 %
		高	73.4 %	○	◎	◎	○	△	79.1 %	100 %
10	防災教育副読本「明日に生きる」を活用して防災教育に取り組む学校の割合 [小・中・高]		99.1 %	◎	◎	◎	◎	◎	100 %	100 %

基本的方向3 「健やかな体」の育成

No	指 標		H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	昭和60年頃の子どもの体力水準に達している項目の割合 [小・中・高]		9.1 %	▲	△	▲	▲	▲	22.7 %	50 %
2	スポーツをする児童生徒の割合 (授業を除き1日1時間以上)	小	50.0 %	△	△	△	△	▲	51.3 %	77.8 %
		中	78.5 %	○	○	○	○	○	79.0 %	86.9 %
		高	51.1 %	○	△	△	△	▲	53.8 %	78 %
3	「運動プログラム」を活用している学校の割合	小	64.5 %	◎	○	△	○	△	80.7 %	90 %
		中	54.8 %	○	○	△	◎	○	78.4 %	80 %
4	朝食を毎日食べる児童生徒の割合	小	87.4 %	○	○	○	○	○	84.8 %	92 %
		中	83.2 %	○	○	○	○	○	79.7 %	88 %
		高	80.9 %	○	◎	○	○	○	79.3 %	85 %
5	食育に関する体験活動の実施のべ回数 [小・中]		3,407 回	◎	○	○	○	○	4,393 回	4,500 回
6	学校保健委員会を実施している学校の割合 [小・中・高]		97.3 %	○	○	○	○	○	98.7 %	100 %
7	薬物乱用防止教室を開催した学校の割合 [中・高]		74.4 %	◎	○	◎	○	△	89.0 %	100 %

基本的方向4 幼児期の教育の充実

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	幼稚園教員と保育士の合同研修を実施する市町の割合	60.0 %	◎	◎	◎	◎	◎	94.7 %	88 %
2	幼稚園教員を対象とした資質向上研修を実施している公立幼稚園の割合	100 %	◎	◎	◎	◎	◎	100 %	100 %
3	円滑な接続のために小学校と連携した公立幼稚園の割合	69.3 %	◎	◎	◎	◎	◎	100 %	100 %
4	認定こども園の数	118 園	◎	○	○	◎	◎	509 園	490 園
5	わくわく幼稚園を実施している私立幼稚園数	157 園	○	△	△	△	▲	140 園	202 園

基本的方向5 特別支援教育の充実

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	特別な支援を必要とする児童生徒の「個別の指導計画」を作成・活用した学校の割合	小	97.6 %	○	○	○	○	99.0 %	100 %
		中	95.8 %	○	○	○	○	97.7 %	100 %
2	特別な支援を必要とする生徒が在籍する県立高等学校のうち、「個別の指導計画」を作成・活用した学校の割合 [高]	51.1 %	○	○	◎	◎	◎	80.2 %	80 %
3	特別な支援を必要とする児童生徒の「個別の教育支援計画」を作成・活用した学校の割合	小	80.3 %	○	○	○	○	98.0 %	100 %
		中	81.9 %	○	○	○	○	98.1 %	100 %
4	特別な支援を必要とする生徒が在籍する県立高等学校のうち、「個別の教育支援計画」を作成・活用した学校の割合 [高]	61.2 %	△	△	○	○	○	73.3 %	80 %
5	通常の学級に在籍し、「個別の教育支援計画」を作成した生徒の支援情報を高校等の進学先へ引き継いだ割合 [中]	新規調査	※	○	○	○	○	98.0 %	100 %
6	特別支援教育に関する研修を受講した教員の割合 [幼・小・中・高]	78.3 %	△	△	○	○	※	※	100 %
7	特別支援学校高等部から一般就労した卒業生の割合 [特]	16.5 %	▲	△	△	△	—	25.1 %	全国平均以上
8	交流及び共同学習を通じて、障害のある生徒の理解がよくなった高校生の割合 [高]	新規調査	※	○	○	○	○	94.8 %	95 %
9	特別支援学校高等部生徒の就労体験を受け入れる企業・事業所等の数 [特]	448 事業所	◎	◎	◎	◎	◎	860 事業所	毎年度 事業所 450 所

基本的方向6 私学教育の振興

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	県民による私立高校の選択（募集定員充足率）	87.7 %	◎	○	○	○	○	86.7 %	H26実績値を維持
2	私立学校の耐震化率	80.0 %	◎	◎	◎	◎	—	—	90 %

基本的方向7 高等教育の推進

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	県立大学における共同研究・受託研究数	174 件	○	◎	○	○	○	209 件	220 件
2	県立大学における留学生数（派遣人数）	81 人	◎	◎	◎	◎	◎	194 人	150 人
3	県立大学における留学生数（受入人数）	176 人	△	△	△	▲	▲	189 人	300 人
4	県立大学における地域向けの公開講座・オープンゼミナールの開催（開催講座数）	22 講座	◎	◎	◎	◎	○	39 講座	42 講座
5	県立大学における地域向けの公開講座・オープンゼミナールの開催（受講人数）	1,144 人	○	○	◎	◎	◎	2,674 人	2,200 人
6	HUMAP構想による短期留学生交流人数	371 人	◎	◎	◎	◎	◎	498 人以上	毎年度 人 350 以上
7	単位互換による教養教育等の共同化大学数	31 大学	◎	◎	◎	◎	◎	34 大学以上	毎年度 大学 34 以上

基本方針3 子どもたちの学びを支える仕組みの確立

基本的方向1 学校の組織力及び教職員の資質能力の向上

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値	
1	授業研究を伴う校内研修を実施した学校の割合 (年間5回以上)	小	93.2 %	○	○	○	○	※	※	98 %
		中	49.6 %	○	○	○	○	※	※	70 %
		高	34.4 %	○	△	◎	◎	○	85.0 %	90 %
2	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合 [小・中・高・特]	67.1 %	○	○	○	○	—	—	90 %	
3	教職員の処分量数 [小・中・高・特]	311 件	△	▲	▲	▲	▲	334 件 以下	130 件 以下	
4	体罰の発件数 [小・中・高・特]	50 件	△	▲	▲	▲	▲	20 件	0 件	
5	学校評価の結果をその後の具体的な取組に活かした学校の割合 [幼・小・中・高・特]	新規調査	△	△	△	△	△	74.5 %	100 %	
6	「教職員定時退職日（ノー残業デー）」を実施している学校の割合（週1回以上） [小・中・高・特]	(84.4) 設定率 %	◎	◎	○	△	△	89.6 %	100 %	
7	「ノー会議デー」を実施している学校の割合（週1回以上） [小・中・高・特]	(87.5) 設定率 %	◎	◎	◎	◎	○	97.4 %	100 %	
8	「ノー部活デー」を実施している運動部、文化部の割合（平日は週1日以上、土曜日、日曜日等の休業日は月2回以上部活動を行わない）	中	新規調査	※	○	○	◎	—	—	100 %
		高	新規調査	※	○	○	○	—	—	100 %
9	いじめの実態把握のために、アンケート調査を実施している学校の割合（学期に1回以上）	小・中	100 %	◎	◎	◎	◎	—	—	100 %
		高	98.8 %	◎	◎	◎	◎	—	—	100 %
10	認知したいじめを解消させた割合 [小・中・高・特]	85.2 %	◎	◎	◎	◎	—	—	全国平均以上	
11	暴力行為の発件数(児童生徒1,000人あたり) [小・中・高]	4.3 件	◎	◎	◎	◎	—	—	全国平均以下	
12	不登校児童生徒の割合 [小・中・高]	1.08 %	◎	◎	◎	◎	—	—	全国平均以下	
13	精神疾患による療養者数 [小・中・高・特]	230 人	○	○	△	△	▲	246 人 以下	160 人 以下	
14	休職中の教員のプレ出勤等実施率（精神疾患により休職中の教員が職場復帰する際の1ヶ月以上のプレ出勤等率） [小・中・高・特]	44.4 %	◎	◎	△	◎	◎	100 %	80 %	

基本的方向2 安全・安心な学習環境の整備

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	県立学校の耐震化率 [高・特]	87.8 %	◎	◎	◎	◎	◎	100 %	100 %
2	県立学校における普通教室への空調設備の整備率 [高・特]	64.9 %	◎	◎	◎	◎	◎	100 %	100 %
3	県立学校における太陽光発電設備の整備率 [高・特]	61.0 %	○	○	◎	◎	◎	94.2 %	90 %

基本的方向3 家庭の教育力の向上

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	P T C A活動支援事業参加者数	20,632 人	◎	○	○	◎	◎	19,783 人 以上	毎年度 人 18,000 以上
2	市町における子育て家庭を対象とした講座への参加者数	550,250 人	◎	◎	◎	◎	◎	815,917 人 以上	毎年度 人 550,000 以上
3	まちの子育てひろば事業実施箇所数	2,144 箇所	◎	○	○	○	○	1,964 箇所	2,139 箇所
4	未就園児及びその保護者を対象とした教育相談・保育等を実施する公立幼稚園の割合	54.5 %	◎	◎	◎	◎	◎	96 %	90 %
5	乳幼児子育て応援事業を実施している私立幼稚園数（累計）	203 園	○	○	○	○	○	213 園	232 園
6	乳幼児子育て応援事業を実施している保育所数（累計）	438 園	○	◎	○	○	○	505 園	510 園

基本的方向4 地域全体で子どもを育てる環境づくりの推進

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	地域の子どもは伸び伸びと育っていると思う人の割合	62.7 %	○	○	◎	◎	◎	65.8 % 以上	毎年度 % 63 以上
2	地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している人の割合	22.1 %	◎	◎	◎	◎	◎	36.3 % 以上	毎年度 % 23 以上
3	登下校の見守り活動が行われている学校の割合 [小]	95.2 %	隔年調査	○	隔年調査	○	隔年調査	隔年調査	100 %
4	地域住民の参画による学校地域連携の仕組みを有する学校の割合（政令市、中核市除く） [小・中]	4.0 %	◎	○	◎	○	◎	97.1 %	100 %
5	ひょうごっ子・ふるさと塾事業実施数	45 箇所	△	△	▲	◎	◎	149 箇所	毎年度 箇所 100 箇所
6	学校関係者評価を公表（広く公表）している学校の割合 [幼・小・中・高・特]	99.2 %	◎	◎	◎	◎	◎	100 %	100 %

基本方針4 すべての県民が学ぶ生涯学習社会の形成

基本的方向1 生涯を通じた学びの機会・場の充実

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	美術館・博物館における特別展等の内容に満足している来館者の割合	90.5 %	◎	◎	◎	◎	◎	90.6 % 以上	毎年度 % 90 以上
2	社会教育施設の総利用者数（アウトリーチ含む）	250.1 万人	◎	◎	○	◎	◎	252.3 万人 以上	毎年度 万人 200 以上
3	社会教育施設の講座やイベント・アウトリーチの実施回数	2,749 回	◎	◎	○	◎	◎	2,913 回 以上	毎年度 回以 上 2,800 以上
4	目的を持って学んでいるものがある人の割合	40.7 %	◎	◎	◎	◎	◎	44.7 %	毎年度 % 41
5	高齢者大学講座の受講者数	3,193 人	◎	◎	○	○	○	2,893 人 以上	毎年度 人 3,150 以上
6	生涯学習情報ネットワークシステムのアクセス件数	641 千件	▲	△	△	▲	△	535 千件	730 千件
7	人と自然の博物館における共生博物館地域研究員の養成人数	212 人	◎	◎	◎	◎	◎	265 人	235 人
8	社会教育関係職員等研修受講者数（のべ人数）（累計）	291 人	◎	◎	◎	◎	◎	2,534 人	1,500 人
9	生涯学習リーダーバンクの登録者数	233 人	○	○	○	○	○	244 人	255 人

基本的方向2 文化財の保存・活用

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値
1	住んでいる地域には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化など）があると思う人の割合	47.5 %	◎	○	◎	◎	○	53.8 %	55 %
2	考古博物館におけるボランティア（考古楽者）研修修了人数	308 人	◎	◎	◎	◎	◎	402 人	400 人
3	「ひょうごヘリテージマンス」における歴史文化遺産を活用した事業の実施件数	127 件	◎	◎	◎	◎	◎	202 件	200 件

基本的方向3 「スポーツ立県ひょうご」の実現

No	指 標	H25実績値	H26評価	H27評価	H28評価	H29評価	H30評価	H30実績値	H30目標値	
1	スポーツをする児童生徒の割合（授業を除き1日1時間以上）	小	50.0 %	△	△	△	△	▲	51.3 %	77.8 %
		中	78.5 %	○	○	○	○	○	79.0 %	86.9 %
		高	51.1 %	○	△	△	△	▲	53.8 %	78 %
2	親子で行うスポーツプログラムを実施するスポーツクラブ21ひょうごの割合	66.8 %	◎	△	△	△	△	75.6 %	88 %	
3	年間を通じてスポーツを実施する成人の割合（週1回以上）	47.2 %	△	◎	○	○	○	63.8 %	69 %	
4	大学や企業と連携したスポーツイベント等の開催に取り組むスポーツクラブ21ひょうごの割合	6.2 %	▲	▲	▲	▲	▲	19.3 %	38 %	
5	気軽に参加できる生涯スポーツ大会数	59 大会	○	○	○	○	△	73 大会	85 大会	
6	国内外で活躍する本県選手数	484 人	△	△	△	△	△	481 人	540 人	
7	障害のある人のスポーツ参加者数	7,706 人	◎	◎	◎	◎	◎	39,932 人	27,000 人	

第2期「ひょうご教育創造プラン（兵庫県教育基本計画）」
平成30年度実施計画に掲げる指標の達成状況が低い項目（▲：70%未満）について

指 標	目 標	実 績	理 由	対 応
[2-3-1] 昭和60年頃の子どもの体力水準に達している項目の割合〔小・中・高〕	50%	22.7%	50m走、持久走の「走能力」の項目では全国同等以上の傾向を示しているが、生活様式の変化等により、「握力」と「投能力」の項目が低い値となっている。	新たに新体力テスト測定支援員をモデル的に配置し、課題を検証する。「体力アップサポーター派遣事業」を引き続き実施し、専門性に優れたサポーターを小学校に派遣する。ホームページに掲載している「3分間で分かる小学校体育授業」等の活用を促すとともに、体力アップスクール表彰受賞校の取組等を紹介し、教員の指導力向上に努める。
[3-1-2] [4-3-1] スポーツをする児童生徒の割合（授業を除き1時間以上）〔小・高〕	[小] 77.8% [高] 78%	[小] 51.3% [高] 53.8%	運動をする児童生徒とそうでない児童生徒の二極化がみられる。特に小学校1年生の運動時間は、例年より低い傾向が見られる。	体力アップサポーターによる授業を活用し、近隣校の教員に対しても参加を促すとともに、報告動画をホームページに掲載するなどして教員の指導力向上を図ることにより、児童生徒が運動の楽しさを実感する機会を増やす。
[2-4-5] わくわく幼稚園を実施している私立幼稚園数	202園	140園	認定こども園への移行により幼稚園数が減少したこと、また、低年齢児に対応するための教職員の人材確保が困難となっており、在宅幼児に対する教育提供の体制が整備できていない園がある。	幼稚園教員を離職した再就職希望者、潜在幼稚園教諭の就職を支援するとともに、現場で業務を支援するシステムの導入補助などにより業務の軽減を図るなど、私立幼稚園等教員の人材確保に努めることにより、各園の整備に努める。
[2-7-3] 県立大学における留学生数(受入人数)	300人	189人	日本語のできる留学生を対象とした教育カリキュラムを設置していたなど、留学生の受入環境が整っていなかったため伸び悩んだ。カリキュラムの工夫、海外への広報・PRが必要である。	学生寮など留学生受入環境を整備するとともに、今年度開設した国際商経学部のグローバルビジネスコースをはじめとして、留学生確保に向けた広報・PR活動を強化する。
[3-1-3] 教職員の処分件数〔小・中・高・特〕	130件	334件	処分件数は微減となっているが、わいせつ事案は前年と比べ、増加している。処分件数の約75パーセントを交通事故・違反が占めている。	綱紀粛正通知の周知徹底、市町教委、各学校での研修等の実施により、交通法規の遵守と交通事故の防止をはじめ綱紀粛正の徹底に努める。
[3-1-4] 体罰の発生件数〔小・中・高・特〕	0件	20件	前年度から総数は減少したものの、部活中に行われた体罰の件数は同数であった。	綱紀粛正通知の周知徹底、市町教委、各学校での研修等の実施により、体罰防止の徹底に努める。また、処分の厳罰化について全所属に通知し、体罰の防止を図る。
[3-1-13] 精神疾患による療養者数〔小・中・高・特〕	160人以下	246人	先輩教職員の減少や教職員の担当する業務が増加する一方、若手教職員へのサポートが十分ではなく、若手教職員の精神疾患による病休取得が増加した。	若手教職員が先輩教職員に気軽に相談できる仕組みを作り、若手教職員のサポート体制の充実に取り組む。また、復職後の個別面談や精神健康チェックによる再発防止等、各段階に応じた対応を継続していく。
[4-3-4] 大学や企業と連携したスポーツイベント等の開催に取り組むスポーツクラブ21ひょうごの割合	38%	19.3%	専門的な見識を有するクラブアドバイザー（大学教員等）を市町に派遣し、指導・助言を行なうことで活性化を図ったが、目標値には至らなかった。	全県スポーツサミット等で、大学・企業との取組事例紹介を通じて、連携の手法を共有するとともに、企業に対しスポーツを通じた健康増進の福利厚生としての「スポーツクラブ21ひょうご」を活用するよう促す。